



Q

倉敷市真備支え合いセンター 見守り連絡員 Aさん からのご質問

話を聴くことはできても、解決できないことやその事実からは逃れられない。このようなお話をお聴きした時に、最後にどんな言葉をかけて訪問を終えたら良いのでしょうか？

A

「生きる意味の発見」というニーズ

みなさんがよくご存じのように、被災状況は1人1人異なっているため、どのような言葉かけが良いのかも相手によって違ってきます。被災された方は、短時間で多くの喪失を体験しています。住まい、思い出の品々、お仕事、住み慣れた地域での関係、なかにはご家族を亡くされた方もいらっしゃいます。「なんで自分が・・・」「これから、どうしたらいいのか・・・」そんな気持ちから、心のエネルギーは下がりがちになります。心が消耗すると生きていくことさえ億劫になり、言葉にすることもできない、声をあげることもままならない時もあるかもしれません。このような状態にいらっしゃる方にとっては、「生きる意味を感じられる」支援が必要となってくるのではないのでしょうか。

「生きる意味を感じられる」支援

みなさんが大切にしている **相手に関心をもつ** ということ。その方法として、「相手のことを話題にする」こともひとつです。「話してくださって、ありがとうございました」と、話してくれたという相手の行動に対してお礼の気持ちを伝えることや、「〇さんのお気持ちをきかせてくださって、うれしかったです」と、相手の行動によってみなさんがどのような影響を受けたのかを言葉にして伝えるということもできるでしょう。このような言葉かけは、「自分を大切にしてもらえた」という感情が生まれやすく、心のエネルギーが上がることにつながる可能性があります。

また、「被災された方自身が本来もっている内なる力」にみなさんが目を向けて、言葉で伝えることも大切です。質問の例では、「つらいことを人に話すことができる力」があるという見方ができるのではないのでしょうか。これは、**ストレングス視点** といって、強みに焦点をあてることです。

物質的・精神的な喪失に立ち止まり続けてしまう傾向が強い被災された方にとっては、ご本人がこのような捉え方をできるようになることによって、復旧・復興に向かおうとする気持ちへと変化していくこともあります。「災害の客観的な被害程度が今後の見通しを決定しているのではなく、被害そのものをその人がどう受け止めるかによって、生活の見通しが異なってくる」との、過去の調査結果もあります。私たちの支援とは、相手に代わって問題を解決をすることではなく、被災されたその方自身が問題へ対処していける力を高めていくことです。そのためにも、おひとりおひとりが持つ力に目を向けた関わりをしていきたいですね。



3月14日に、「災害支援者のメンタルヘルス」研修を行いました。「被災者への訪問や支援に身を粉にして働いたにも関わらず、被災者に激しく罵られ続けて消耗してしまった。ひと通り話を聞いた後に、被災者の方へ最後にどんな言葉を掛けたいか」など、支援者同士のコミュニケーションについて学びました。また、「つらそうな人に声をかけるにはどうしたらいいのか？」とのテーマに対して、「どう声をかけるかというより、どうやって話してもらるか、どう聞かか」だと、講師からお話がありました。

岡山県くらし復興サポートセンター
 社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会
 〒700-0807 岡山市北区南方2丁目13-1 きらめきプラザ3F
 TEL: 086-226-2830 FAX: 086-225-6602
 *岡山県くらし復興サポートセンターの事業は、岡山県から「被災者見守り相談支援事業に係る市町村支援業務」の委託を受けて実施しています。



編集後記
 平成30年度が終わるタイミングでこのくらし復興サポート通信が出来上がりました。平成31年度から定期的に支援員さんへ向けて役立つ情報を発信していこうと思います。「こんなこと知りたい!」「こんな情報あったよ!」など、お気軽にこちらまでお寄せください。(よし)

発行人/岡山県くらし復興サポートセンター 発行日/平成31年3月29日

くらし復興サポート通信



平成30年7月豪雨災害の被災者の生活を支援するあなたのために情報をお届けします。



岡山県くらし復興サポートセンターのご紹介

平成30年7月豪雨により被災された方々は、避難所生活から応急仮設住宅等へ入居されるなど、被災前とは日々生活環境が変わっており、これからの生活再建に向けて、様々な課題を抱えられることが想定されます。

被災者の安心、安定的な暮らしへ向けて、様々な生活上の困りごとや生活の再建について、被災者の立場に立った相談活動を通じて、生活課題や福祉課題を発見し、その解決に結びつけるとともに、孤立や引きこもり防止を図るために、見守りや仲間づくり、居場所づくりなど、住民相互の繋がりをつくる取り組みを展開していく必要があります。

これらの取り組みを進めていくために、県内には市町村が設置する被災者見守り・相談支援事業を実施するセンターが開設されました。そのセンターの後方支援を目的とした「岡山県くらし復興サポートセンター」を開設いたしました。被災者見守り・相談支援事業実施センターと連携し、被災者に寄り添いながら、被災者の安心した暮らしと生活再建に向け、総合的な支援を展開しています。

岡山県くらし復興サポートセンターは、岡山県から社会福祉法人岡山県社会福祉協議会が委託を受け、運営・事業実施をしています。



被災者の方々のくらしの復興をオール岡山で、寄り添った支援をしていけるよう、県内社協や各種専門機関・団体の皆様との協働を大切に職員一同、精一杯頑張ります！

センター長 吉田光臣



私の役割は、本センターの運営面における事務的な手続きから、実施センター等連絡会の企画・開催等ですが、他職員と一緒に考え、助けてもらいながら手探りで取り組んでいます。微力ながら、できることを精一杯頑張りますのでよろしくお願いします。

副センター長 石井慎一



被災による避難生活、大切な人との死別、なぜ自分が...という出来事。そんな経験から、「支援」という関わりを考えてきました。主に研修を担当させていただきながら、みなさんと共に学び合い、被災された方々の助けになれるように、力を尽くしていきます。

くらし復興コーディネーター 椿原恵



平成28年に発生した熊本地震の際、熊本市社協の一員となり建設型仮設住宅で生活支援相談員として活動しました。ニュースで西日本豪雨災害を見て、故郷の岡山に戻ってきました。

くらし復興コーディネーター 保住賢哉



今年の2月よりこちらに採用となりました。各研修や会議の補助、書類作成などを主に担当いたします。この通信の編集も担当させていただきます。まだわからないことが多いですが、少しでもみなさんのお役に立てるように頑張ります。よろしくお願いいたします。

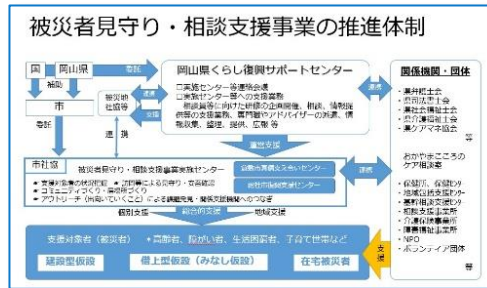
くらし復興コーディネーター 吉岡一恵



誰もが住み慣れた場所で、その人らしい生活を、共に、豊かに送れる地域社会

くらし復興サポートセンターの動き

2018年10月～2019年3月



所長	センター業務の管理運営・総合調整
副所長	所長補佐、総合調整、支援センター、市町村社協等の連絡・調整、手続・決済、経理・対外、情報収集、整備、提供しに活用、連絡会等の会議企画・開催、専門職・アドバイザー派遣等。
くらし復興 コーディネーター 3名	支援センター、市町村社協等への訪問支援、相談対応、活動支援、連絡調整、情報収集、整理、整理及び活用、相談員等への連絡調整・調整、センター業務の推進し等。
事務職員	【具体的内容】 ・支援センターの連絡等へ対応した研修企画・開催 ・訪問活動における実地研修（巡回訪問） ・関係機関・団体等における関係のトランジエ（連携・協力） ・支援センター等における相談支援・情報収集、連絡調整等 ・実施センター等への報告や調整等

- 活動1：被災者生活支援従事者の研修企画・開催
- 活動2：支援関係機関等の会議企画・開催
- 活動3：被災者支援における専門職・アドバイザー等の派遣
- 活動4：被災者支援に関する普及啓発
- 活動5：倉敷市真備支え合いセンター・総社市復興支援センターの運営支援

10月	11月	12月	1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> 10/1 岡山県くらし復興サポートセンター開設 10/2 被災者見守り・相談支援事業に係る関係団体連絡会議 10/16-17 被災者見守り・相談支援事業に係る事前研修会 10/19 先災地視察 [熊本県] 10/22 導入研修 10/29 階層別【初任者層 第1期】研修 10/30 先災地視察 [愛媛県] 	<ul style="list-style-type: none"> 11/1-7 階層別【初任者層 同行訪問】研修 11/16 階層別【初任者層 第2期】研修 11/21 第1回実施センター等連絡会 11/27 職種別「訪問活動のすすめ方」【相談支援従事者 第1回】研修 11/27 課題別【多機関連携・協働】研修 	<ul style="list-style-type: none"> 12/13 階層別【初任者層 第2期】研修 12/18 第2回実施センター等連絡会 	<ul style="list-style-type: none"> 1/11 多機関協働による総合相談・生活支援体制整備の促進・支援セミナー 1/15 第3回実施センター等連絡会 1/16-18 先災地視察 [宮城県] 1/29 課題別【情報の保護と活用】研修 	<ul style="list-style-type: none"> 2/12 第4回実施センター等連絡会 2/21 課題別【公的支援制度】研修 2/22-26 メンタルヘルスケア【個人面談】 2/25-3/8 借上型仮設住宅入居世帯への支援状況調査 	<ul style="list-style-type: none"> 3/14 メンタルヘルスケア【セルフケア】 3/14 職種別「情報収集と分析」【相談支援従事者 第2回】研修 3/15 自治体間等による被災者の支援体制構築に向けた連携会議



講師：いわき市社協 事務局次長 篠原氏

今後想定される課題として、「未面談世帯への土日・夜間訪問や電話による対応」「他市町村から移り住んでいる方への支援のための社協間の情報共有」「組織内部の縦割りをなくすための部門間の情報共有」について学びました。



講師：釜石市社協 地域福祉課長 菊池氏

活動の目的は、「生活の再建」であり、そのためには「暮らしの全体を支える」必要があること、社協機能の最適化のために「合議の場」を設定すること、連絡員・相談員が「心合わせ」を毎日繰り返すことによって横のつながりをつくることの重要性等を学びました。



多機関協働セミナー

自治体職員 27 名、社協職員 34 名、社会福祉法人職員 18 名、NPO 職員 3 名が参加し、災害後の住民の生活支援について考えました。「被災者から抜け出せない人にしない取り組みが大切であること」「孤立を防ぐ方法。交流の方法はその人により様々。大勢の交流、イベント、定期的な居場所だけでなく、個と個のつながりによる交流もあるかも」などの感想がありました。



建設型仮設住宅入居世帯への訪問活動の様子

倉敷市外の借上型（みなし）仮設住宅への初回訪問活動において、9市町（岡山市、玉野市、笠岡市、井原市、高梁市、浅口市、早島町、里庄町、矢掛町）の社会福祉協議会に協力いただき、アドバイザーとして社会福祉協議会職員を派遣を実施しました。見守り連絡員と一緒に現居住地市町の社会福祉協議会職員が訪問することで、現居住地市町の生活情報等の提供や助言、民生委員やふれあいサロンへのつながり等が行えました。

- 1/30-3/26 倉敷市外の借上型仮設住宅入居世帯訪問へのアドバイザー派遣



自治体間等による連携会議

被災したことにより、今までとは異なる市町で生活する被災者の生活再建に向けて、できるだけきめ細やかに寄り添った支援を行っていくためには、自治体や社協間等の連携・協力が必要不可欠であることから、借上型（みなし）仮設住宅が所在する14市町の自治体や社会福祉協議会にご参加いただきました。本会議では、被災者が県内どこにいても、安心して相談できる体制づくりを目指して、被災者の立場にたった相談窓口体制の構築をテーマとし、窓口の担い手や機能、それに伴う課題について協議しました。この協議をもとに、県域における申し合わせやガイドラインに結びつけていきたいと考えています。